

やっぱり家がいい!!

— 第4巻 医療・介護・生活支援を考える編 —



厚木市
地域包括ケア(研修・啓発・広報)連絡会

厚木花子さん81歳、ご主人の厚木一郎さん82歳…。

花子さんに介護が必要となった結果、家で過ごしていくことを選び、介護保険や医療サービスを利用することに決めました。

近所の人たちにも支えてもらい、何とか生活が軌道に乗ってきました。

その時、花子さんが高熱を出し緊急入院してしまいます。

ごえんせいはいえん
誤嚥性肺炎でした。

その後、退院は決まったものの…

花子さんは、入院前から比べると体力が落ちていました。

訪問診療の医師の呼びかけで、

花子さんや一郎さんはもちろん、娘たちや支援者が集まり、

これからの事について話し合いを持つことにしました。

これまでの暮らしで大切にしてきたこと、

今の暮らしで気になっていること、

やっぱり家がいい!

これからどう生きていきたいか、
これから経験したいこと、

大切な人に伝えておきたいこと、
最期の時間をどこで誰とどのように過ごしたいか。

高熱など急変時の治療は、病院か自宅か。

人生の最終段階は、自宅か施設、または病院か。

節目、節目で花子さん達家族は話し合いを重ねました。

その結果決めたのは、花子さんを

「急変時は病院で診てもらおう。」

そして最期は、自宅で迎えるという答えを出したのでした。

家で過ごしたい花子さんと、

介護中心の生活になった一郎さんがどう過ごしているのが、

その後の物語を、ご覧ください。



初めて花子さんが
肺炎を起こした時には
大慌てだった一郎さん

緊急入院を何回か
繰り返しているうちに
一郎さんも落ち着いて
対応ができるようになりました

あれっ
母さん 熱が高いな

明日は訪問看護師の
藤原さんが来るから
相談しよう

こんにちは
こまち訪問看護
ステーションの
藤原です

藤原さん…
昨日から母さん
熱が高くてね

また喉が
ゴロゴロして
いるんだよ
どうだろう…

そうですね
だいぶ痰^{たん}が
からんでますね

お熱もあるし
肺の音も弱いので
徳武先生に
ご連絡しましょうか

フルレレ……

はい こんにちは
徳武クリニックの
徳武です

こまち訪問看護
ステーションの
藤原です

花子さんの具合ですが
昨日の晩から
痰がからんで
高熱がでています

わかりました
往診にお伺いします
一時間半ぐらい
お待ちいただけますか？

よろしく
お願いします

こんにちは
徳武です

先生 母さんがまた
熱が高くて……
喉もゴロゴロしていて
苦しそうなんです

ご飯も食べられないし
水も飲めなくて……

診察しますね

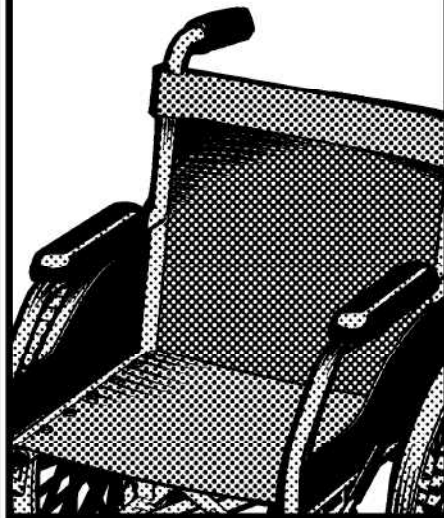
……一郎さん
花子さんは
肺炎をおこして
いますね

花子さんも一郎さんも
何かあった時の治療は
病院を希望していましたよね
受診のために
病院と連絡を取ります

花子さんの治療は
病院で行いたいという思いを
今までも優先して
入院治療をしてきました
今回も緊急入院を
することにになりました……

その後……
肺炎の状態は落ち着いたものの
入院をする度に身体の状態は
低下していきました

今回も例外ではなく
更に介助することも
多くなっています……



こんにちは
担当医師の服部です
今日は花子さんの状態に
ついてお話をします

肺炎の治療は
ほぼ問題のないところまで
来ていますので
そろそろ退院できます

ですが…
ご家族もご承知の通り

病気をする度に
身体状況が
低下しています

入院前より
オムツの交換も増え
食事の工夫も更に
必要になっていきます

一郎さんの負担も
増えることが
予想されます…

この状態で自宅に帰り
一郎さん一人で
看るとなると…
とても大変になりますか…
今後はどうしますか…

うちのは…
家が大好きなんです
家がいいと
いつも言っています

一郎さん…大丈夫ですか
花子さんが
家に帰りたいたいの
わかりますが…
一郎さんの身体も
心配しているんです

そろそろ一郎さんの
身体のことを考えて
施設入所も視野に入れても
良いと思いますよ…

その後…

一郎さんはじめまして
ソーシャルワーカーの
金子と言います

これから
退院された後の生活について
一緒に考えさせて頂く相談員です
よろしくお願ひします

金子先生
ひとつよろしく
お願ひします

私はお医者さんでは
ないので金子で良いですよ
もしこのあと時間があれば
少しお話伺いたいのですが
ご都合いかがでしょうか

実はこの後
用事があったって…
今日の話も
娘にしたいから
また電話します

わかりました
ご連絡
お待ちしております
いますね

その夜
夢子とさつきが
家に集まりました

そして二郎さんから
先生の話の内容が伝えられました

これから
どうする？

母さんはずーっと
家がいいって
言ってるんだから
家に連れて帰るしか
ないだろう

お父さん
私は時間が出来た
時にしか
来られなかったけど

疲れ切った
お父さんを見るの
辛かったわ

これからも
お母さんの介護が
出来ると思っているの？

前よりも動けないし
オムツをするようになったし
全部が少しずつ
大変になっているのよ

でも
お母さんが帰りたかって
言っているし

お父さんも
連れて帰ってきたいって
言っているんだから…
それしかないんじゃない

さつきは全然家に帰ってきていないから！
どれだけ手伝うことがあるかわからないでしょ！

力もいるし代わりがいるわけでもないしお父さんが一人で看てるのよ…

どれだけ大変だったかわかっている？

そうは言うけれど…

結局家に連れて帰ってきたじゃない…何を話しても家に連れて帰ってくるんじゃないの？

さつきあんたはちゃんと見てるの？あの時と今とではお母さんの状況が違うでしょう

介助の量が比べものにならないのよ
適当なこと
言わないでよね

：別に適当なことを言っているつもりはないけどお父さんは施設になんて入れる気はないんでしょう…

お父さんだって前より年を取ったんだから無理できないでしょ

これ以上ひざが痛くなって動けなくなったらどうするの？

お母さんは誰が看るの？
二人とも動けなくなったら私どうしていいかわからないわよ！！

夢子…

近所の人が色々と
手伝ってくれることも
あるし…

少しは父さんも
体力が持ち直したんだよ

……それはお母さんも
入院して楽になっっているから
そう感じるだけで
戻ってきたらもっと大変よ

それに叔母さんも
言ってたわよ
施設に入れなさいって

亡くなった叔父さんも
最期は老人ホームに
入っていたじゃない

施設で看取ったんだって
本当に助かったって
入って良かったって
言ってたわよ……

あー私もね
お義母さんから言われたわよ
条件は色々あるみたいだけど
今は医療体制が整ってる
施設もあるみたいだし

お父さんも一緒に
入れるところもあるんだって
施設の種類も色々らしいわよ

おいおい
そんなに沢山の
ことを言われても
困っちゃうよ…
施設もいってことは
分かってはいるけど…

これでお父さんまで
倒れたらどうするのよ
面倒見れないからね

夢子が心配してくれるのは
わかるけど…

母さんは家にいたいと
いつも言ってる…
母さんの気持ちに
応えてやりたいんだ…

父さんの心配をして
くれているなら
お前たちは時々来て
母さんを見てくれることは
できるのかな…

：ゴメン
私は無理だよ
子どもたちにまだまだ
手がかかるのよ
受験もあるし…

さつきはいつも
そうじゃない
私だって今まで
頑張って来ていたのよ

うちだって子供もいるし
主人は忙しいし
今まで以上は無理よ

ギク…

そうだったよな…
父さんが看ていくから
大丈夫だよ…

お母さんが
家に帰ってきてから
どういう生活するの
わかってる？

想像がついてないから
二人ともそんな簡単に
家に連れて帰るなんて言うのよ
家はもうあきらめたら？

夢子が心配して
くれるのは
良く分かるよ
ありがとうな
実はな…

前に母さんと二人で
こんなのを
書いたことが
あるんだ

トサツ

『エンディングノート』

花子さんが書いた
エンディングノートには

今までの大切な思い出や
大切にしていた想いが
書き記されていました

※エンディングノートとは
今までの人生の振り返りと
これから最期までを
自分らしく過ごすための
準備ノートです

お母さん
こんなの書いていたんだ
知らなかったあ

昔の写真も
貼ってあるわね
懐かしい〜

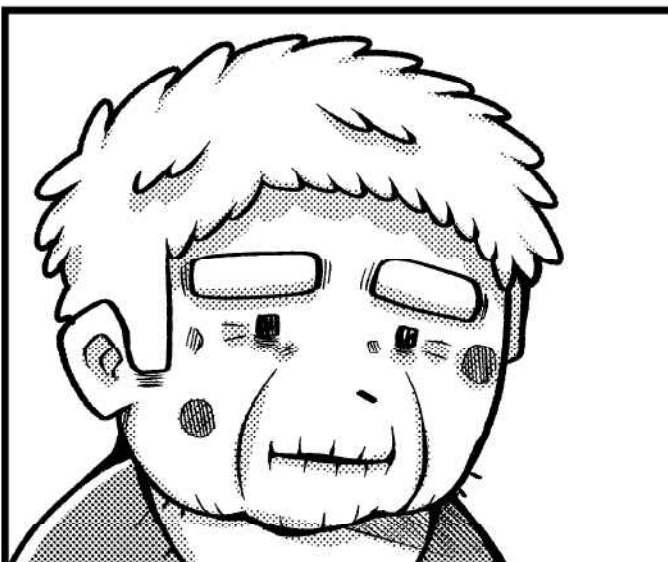
よくとってあったわね
大切にしていたんだ



私 お花が
大好きでしよう
だからこの欄には…
自宅で介護希望に
チエツクして
おこうつと

それに
「大好きな家で
大好きな花を見ながら
最期を迎えたい」
って書いておこう

父さん 希望が叶えられたら
幸せよね
だから延命も望まないに
チエツクしておくね!



母さんらしいな
いいんじゃないか

だから…
母さんが望む生活を
させてやりたいんだよ

最期に幸せだったって
思えるように
してあげたいんだよ…

ソーシャルワーカーの
金子さんには
明後日病院に行つて
「家に連れて帰ります」つて
言ってくるよ

……

……ちよつと
待つてよお父さん
私は納得できないわ

お父さんが
疲れ切っている姿を見ても
お母さんは幸せだったって
思えるの？

施設に入つて毎日会いに行つて
あげればいいんじゃない？
時々外泊して家に連れ帰つて
あげればいいんじゃない？

元気なお父さんに会えれば
場所は無関係ないでしょう？

母さんは
今までも
ずーつと…

大好きな家…
慣れ親しんだ場所…
父さんとも
一緒にいたいって
言つてくれて
いたからな…

でも私たちににとっては
お父さんもお母さんも
大事な存在なんだよ

お母さんの
ことばかり優先して
お父さんに
もしものことがあったら
どうするの？

一度は
自宅で見取ろうって
決めたけれど
お父さんの様子を見て
たら……

大丈夫……
父さんのことは
心配するな

母さんのためだから
大丈夫だから……

大丈夫じゃないでしょ！
今までだって
何かあるとすぐに
私に連絡をしてく……
何が大丈夫だって言うのよ！

姉さん落ち着いてよ
お母さんの気持ち
がまず一番大事でしょ

お父さんだって
大丈夫って言うてるんだし
今までだって
やってこれたんだから
きつと大丈夫だよ

今までが大丈夫だった
からと言って
これから先も大丈夫って
保証はないわよ！

さつきはいつも
何でも楽観的に
考えるわよね

楽観的って何よ！
私だって
私なりに考えてるのよ！

カキン

何をどう考えたら
家に帰ってきてても
大丈夫って言えるのよ
私に説明してちょうだい

何よそれ
いつも姉さんはそうやって
私を何も考えてないみたいに
言うのね

あなたがお父さんと
お母さんのために
何をやったの！

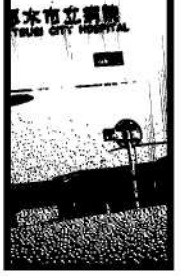
家にもあんまり
顔を出さないで
普段の様子なんて
分からないじゃない

二人とも：
やめなさい
父さんは
大丈夫だから…

翌日…

この日は
家族の中で
意見をまとめることが
できませんでした…

医療相談室



金子さん
今日は急にお時間を
作ってもらって
ありがとうございます

実は…
この間の先生の面談のことで
相談したいことがありまして

今日はお時間を
とっていますので
ゆっくりお話を伺えますよ
どうされましたか？

先生が昨日
父のことも考えて
施設に入った方が良くよって
言っただけですすよね？
父から聞きました

私も施設に入った方が良いつて
思っているんです でも父は—
「母さんはずっと大好きな家で過ごしたいと
思っているから家に連れて帰りたい」
つて言っし

妹も家に帰ったたらどうかつて
言うんですよ
二人ともぜんぜん現実が
見えていないんです

家族の意見が合わなくて
どうしたら良いか…

そうなんです
ケアマネジャーさんから
花子さんが入院した時に
ご自宅で生活をしている時の
情報を頂いています

ご近所さんも協力してお手伝いを
してくれているみたいですね
夢子さんご存知でしたか？

父から聞いています
でもうちのことなのに
ご近所の方に
甘えてばかりで…
申し訳ないです

…ご家族の意見が
バラバラになっていと思うので
最初から施設がいいか
家がいいかという話よりは—

今の状態の花子さんが
家にいたらと想像して
一つ一つ確認しながら
進めた方が お父さんも妹さんも
そして夢子さんも納得しながら
考えられるのではないかと思います

……そうですね
まずは一つ一つ
冷静に考えることが
必要ですよ

なかなかまとまらない時は
担当のケアマネジャーさんも含めて
一緒に整理していきましよう
退院の時に決めたらと言っ
ずっと変更できないということ
ありません

担当のケアマネジャーさんも
相談に乗ってくれると思えますよ
困ったときには
また相談してください

その日の夜

夢子は――
一郎さんやさつきさんと
もう一度話し合いを
持ちかけました

お父さん
色々と考えたんだけど
やっぱり家でこれ以上
お母さんを看るのは
難しいと思うの

心配してくれるのは
ありがたいけど
母さんと一緒にいたいんだ

姉さん お父さんも
こう言っているんだから
家に帰ってきてもらおうよ

そしたらあなたは
どういうことを
手伝ってくれる？

例えば今まで電球の交換や
お父さんが上がるのが大変な
二階の掃除…
タブレットの使い方相談や
ダンボールとか大きいごみを
まとめたりしてたわ

これからうちの子も
受験で忙しくなるから
もっと来れなくなるけど
少しはやってくれるの？

ブ…



それにこれからは
オムツの交換が必要になるのよ
いくらお母さんが軽いつて言っても
お父さんも膝が悪いんだから…

…心配してくれて
うれしいけれど…

今まで父さんが仕事一筋で
やってこれたのは
母さんが一生懸命
家を守ってくれたからなんだ
少しでも恩返しをしたいんだよ

それにな…初めて病院に
入院した時に認知症が
ひどくなつたら

何度も入院をしているから
最近では病院にも慣れて

そんなことにはならないが
俺は辛かったよ

母さんも辛かったんじゃないかと思ってるんだよ
だから新しい施設に
入れるのは心配なんだ

お父さん……



そうね…そこまで言うなら
お父さんが少しでも休める方法を
一緒に考えよう
やっぱり疲れているお父さんを見
るのは辛いもの

ただ…これ以上何をしても
お父さんが休める時間がないって
いうのであれば…私はやっぱり
施設に入ってほしいと思う

わかった
そしたら…金子さんに
相談してみよう

—そして数日後



ソーシャルワーカーの金子さんと
主治医の服部先生による説明が
されました



——もちろん
家に連れて帰れば
一番理想的なのは
わかっています

家族の中で私だけが
反対しているのは……
理由があるからです



そうなんですね
私も一郎さんが
かなり疲れている様に
感じていたので

施設入所も
考えてみたらどうか
……とお話ししました

決して家に帰れない
わけではありません
介護サービスを利用すれば
できない事はないと思います

父が今よりも
もう少し休む方法が
あるのであれば

両親の考えを尊重して
家に連れて帰りたいと
思っています

……今までは
体調が思わしくくない時
入院をしていたきました

ただ今後は……もとの
体力が低下してきているので
治療しても治らないことが
あるかも知れません

覚えておいて
いただきたいのです

お母さんに
治療をして
くれないんですか……？

さつきさん
そういう事では
ないですよ

今までは治療をすれば
その効果が出ていました
肺炎も治りました

これから治療すれば
効果が出る時も
あるでしょう

しかし……人間の生命には
限界があります

その場合は
治療は
及びません

その時を…
「終末期」と判断します



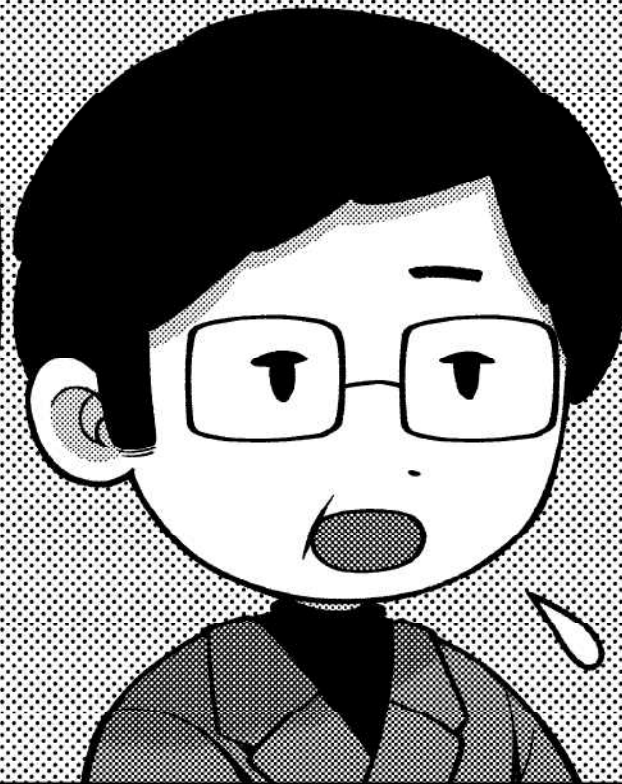
人間は年老いて
最期を迎えると
食事が減っていく。

寝ている時間が
長くなります

徐々に痩せていって
呼びかけにも
応えなくなつてきます

これは病気ではないので
治療で改善できる
ものではないんです

もちろん
病院にいれば治せる
というわけではありません



ですから今は口から
食べることもできませんが
今後飲み込みの機能が
更に落ちてくると口から
食べるのが難しくなってくる

そうすると
栄養を取れなくなります

栄養を摂るために
「胃ろう」を作るとか
点滴をするなどの
方法があります

それでも
命には限界があります



花子さんは
胃ろうや点滴について
何かおしゃって
いましたか？

うちのは
仲の良い友達が
胃ろうをしている姿を
見た時に

胃ろうも点滴も
したくないとは
言っていました…
ただ俺としては…



今無理に
判断されなくても
大丈夫ですよ
これから一緒に
考えていきましょう



父さしん
父さしん

なんだよ

おはな きれいね
わたしがうえた
おはな…

みんなにわけて
あげて…

かあさん
何言ってるんだよ
みんなが植えて
くれたんだよ

おはな きれいね
わたしがうえた
おはな…

みんなにわけて
あげて…

…ん
そうだな
そうするよ

そうね
みんな
よろこぶわ…



そして、一郎さんたちは「**小規模多機能型居宅介護**」
についての説明を受けました。

小規模多機能型居宅介護は、
「デイサービス」、「ショートステイ」「訪問介護」の
各サービスを1つの事業所からまとめて受けることができる
いわゆるセットメニューのようなサービスです。

また、どのサービスも、顔馴染みのスタッフから受けることが
できるので、
人見知りのある方や認知症の方でも安心です。

今の花子さんの状態に応じてデイサービスの時間の調整、
一郎さんの介護疲れや花子さんの状態に合わせてお泊りもでき、
訪問サービスについても本人に合わせた時間や回数で
利用できます。

花子さんも安心できる仕様となっていました。



—その後の花子さんは

小規模多機能型居宅介護のサービスを使いながら、時に肺炎で入院したり、戻ってきたりを繰り返していきました。

草がボーボーになってしまっていた庭も、シルバー人材センターにお願いしたり近所の人たちにも手伝ってもらえることに。

これをキッカケに厚木家の庭に近所の人たちが出入りするようになりました。

おしゃべりをしたり
お茶を飲んだりしながら庭いじりを始めたり…

花で埋めつくされた庭に足を止める人が出てきました。

以前、花子さんが作っていた庭に近づいていたのです。

花子さんは、花で賑わってきた庭を眺めていることが多くなりました。



それから
しばらくして…

少しずつ少しずつ
花子さんは
ごはんを食べる量が
少なくなり
寝る時間も
増えています

そして
先生から
お話がありました

今までと違い
救急搬送して
病院で治療をしても
治る状態ではない
ということ

今の花子さんは
身体が衰弱して
眠っている時間が
長くなっていること

無理に起こそうとしても
身体がそれに反応できる
状態ではないこと




そして
無理に点滴をしても
かえって本人を苦しめて
しまうこと…

それは
病気ではないことを…

みなさんに
伝えておきたい
ことがあります






これから
花子さんが口を開けて
下あごで息をするような
ことがあるかもしれません

これは
苦しそうに見えますが
花子さん自身は
苦しい思いをしていません

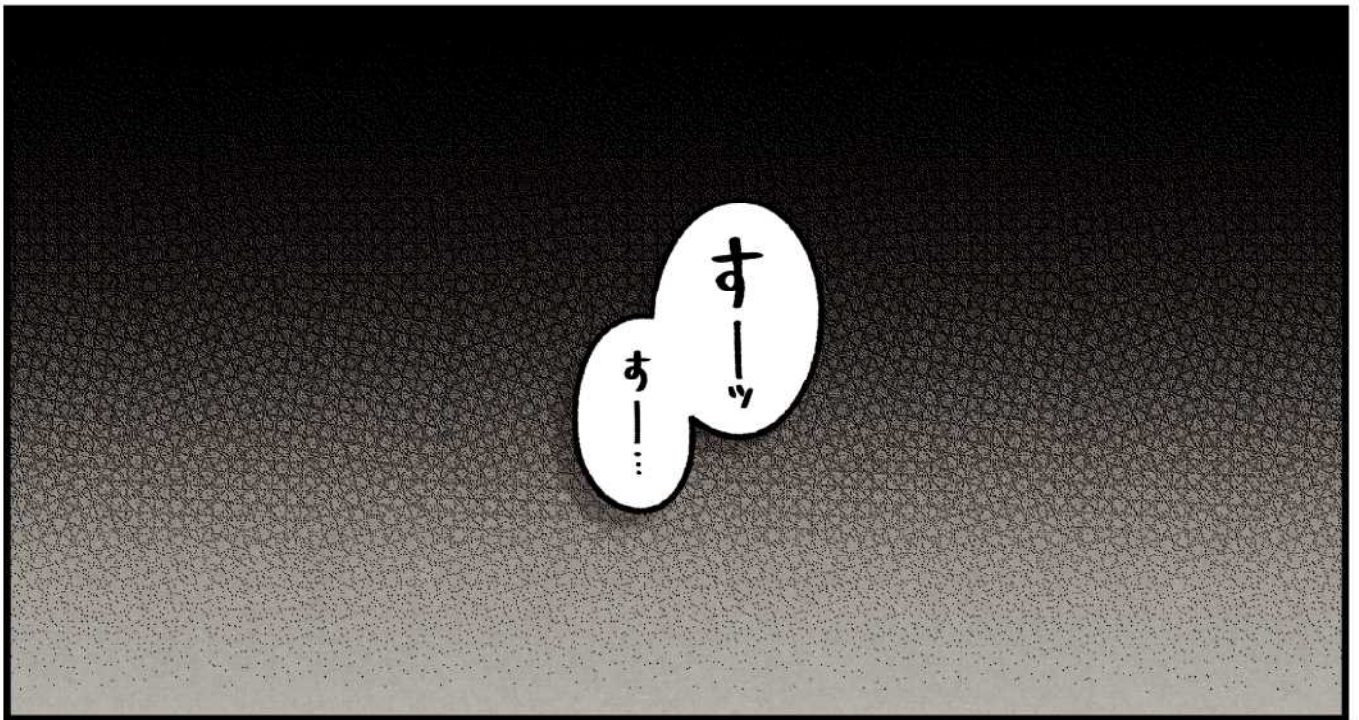
その時は――
慌てる必要は
ありません：



救急車は呼ばずに
訪問看護師の藤原さんに
連絡してください
藤原さんはすぐに
私にも連絡をしてくれます

救急車を呼ぶと
病院に搬送することになり
心臓マツサーズをされたり
人工呼吸器がつけられる
こともあります









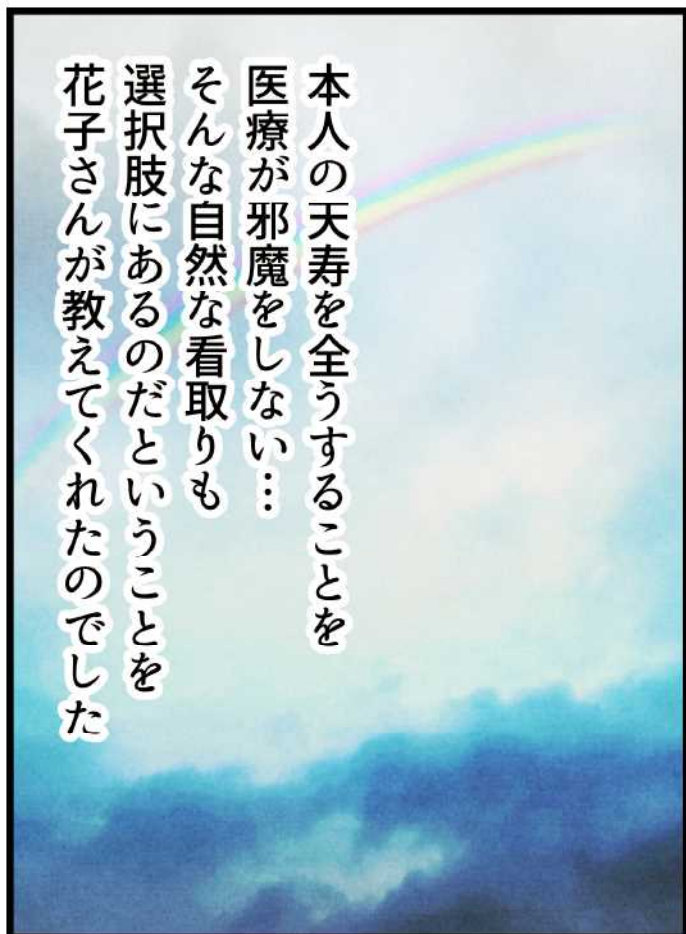
母さん.....!!

花子さんは
息をひきとりました

顔はむくみもなく
とても穏やかで
凜としていました



本人の天寿を全うすることを
医療が邪魔をしない…
そんな自然な看取りも
選択肢にあるのだということ
花子さんが教えてくれたのでした

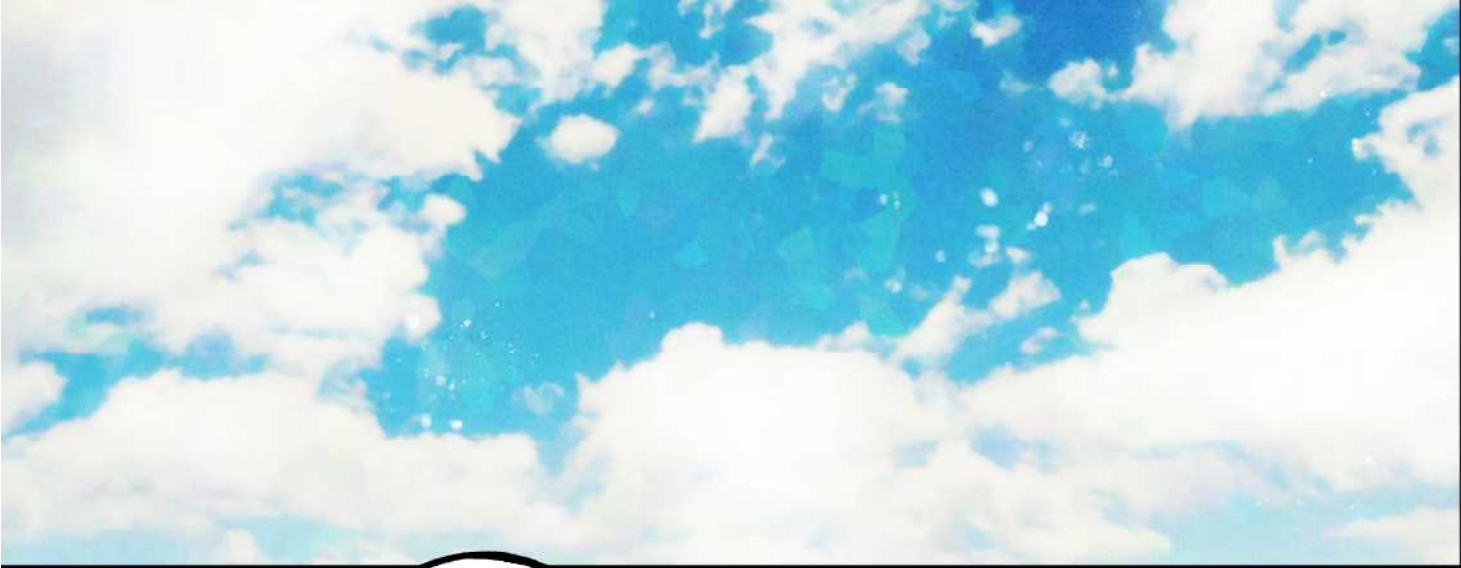


藤原看護師と徳武医師が駆けつけます
徳武医師が診察し
その場でお亡くなりになったことを
確認します



そして
夢子とさつき、藤原看護師で
花子さんの身体をきれいに拭き
花子さんにお化粧をし
お気に入りだった洋服を
着せてあげました





…母さんは
幸せだったかな



お父さんが
お母さんの思いを
叶えてあげようと
一生懸命していたから
幸せだったはずよ

お母さんは最期まで
自分らしく過ごさせて
幸せだったと思う



最期まで自分らしく
過ごすことができる社会

人の生き方や価値観は千差万別です

正解が決まっているわけでもありません



自分がどう生きていきたいか
自分らしく過ごすためにはどんなことが必要か

それを実現するために
一人一人ができることを
みんなと一緒に考えていくことが必要なのです

やっぱり家がいい!

あわづ





やっぱり家がいい！

— 第4巻 医療・介護・生活支援を考える編 —

令和3年4月 第1刷発行

企画・制作 厚木市地域包括ケア(研修・啓発・広報)連絡会

作画 船虫

発行 厚木市 福祉部(地域包括ケア推進課)

〒243-8511 厚木市中町3-17-17

☎ 046(225)2047

本冊子の無断複製・転載・デジタル化などは著作権法上での例外を除き禁じられています。